

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程

概 要

社会福祉学研究科修士課程は、平成14年4月に開設されました。今日、わが国における社会福祉の課題は多様化、深刻化し大きな社会変化をもたらしています。社会福祉にかかわる制度・政策、高齢者、障害者、児童等における諸問題が山積みとなっています。これらの課題を明確にとらえ分析し、その対応策を講じることは急務です。

社会福祉学研究科修士課程では、実践に即した高度に専門的な職業人を育成することを目的とし、現場の社会福祉従事者に対して広く門戸を開いております。さらに現職者への再教育を行う「リカレント教育機関」としての役割も視野に入れた理論的・実践的、そして体系的なカリキュラムを構成し、提供しています。教育課程の教授にはそれぞれの領域に専門的教員を配置し、充実した教育・研究支援体制を用意しています。

開講科目

[必修科目]

社会福祉学特論

[専門選択科目]

社会福祉学特論Ⅰ

社会福祉学特論Ⅱ

社会福祉学特論Ⅲ

社会福祉学特論Ⅳ

社会福祉学特論Ⅴ

社会福祉学特論Ⅵ

社会福祉学特論Ⅶ

社会福祉学特論Ⅷ

社会福祉学特論Ⅸ

社会福祉学特論Ⅹ

社会福祉学特論Ⅺ

[総合科目]

特別研究

教育課程の編成

社会福祉学研究科修士課程では、専門的な知識と技能を有する社会福祉職業人の育成に重点を置くとともに、教育・研究者の養成を行うことを目指した教育課程の編成を行っています。

教育課程編成の特徴は、必修科目、専門選択科目、総合科目から構成されていることです。必修科目により社会福祉の基本的考え方・思想等の理論的基盤を学び、専門選択科目から専門性の高い、また、実践に則した研究方法を修得します。社会福祉では対人福祉援助技術が重要な手法になることから「障害社会論」「行動療法論」を設け、「研究法・調査法」により社会福祉に関する研究方法そのものの基礎を学びます。ソーシャルワーカーにはマネジメント能力も要求されることから「施設経営論」を、さらに、「地域の中で地域から学ぶ」という視点から「地域福祉論」を設けています。また、近年の社会的動向を踏まえ「教育福祉論」「人間動物関係論」を設置しています。

これらの基本的な理論・方法論を踏まえ、統合した成果として「特別研究」を設定しています。すなわち、必要な研究指導を受けることにより理論・方法・実践、そして研究成果が得られる一貫性をもった教育課程を編成しています。